

「打ち水大作戦！」で地球温暖化を考える

厳しい暑さが続く8月1日(木)の夕方、神田キャンパスで「打ち水大作戦！」が決行された。靖国通りに面した10号館の前に水を撒く、ペットボトルを再利用してじょうろを作るといった学生生活課主催のイベントに、通りがかりの地域の人々も学生の呼びかけで参加した。

日本で古くから行われてきた打ち水は気温を下げ、エアコンなどの電気使用の削減にもつながる。参加した村上望香さん(法1)はその効果を実感。「昔よりも暑くなっていると感じていて、環境について考えたいと思い、参加した。打ち水でその場の温度が少し下がったように感じた。手軽にできるので、家族を誘って自宅付近でもやってみたい」と語る。

今回の打ち水には再生水を利用。家庭で行う際は、風呂の残り湯や雨水の利用を環境省は推奨する。専修大学はこのイベントのほか、今年度より学内にウォーターサーバーを設置し、ペットボトル削減に努めるなど環境への取り組みを進めている。



↑乾いた地面に打ち水をする学生



↑村上さん



↑ペットボトルでじょうろを作成する学生

プロに習う 自己表現&ボイストレーニング講座

8月5日(月)に神田キャンパスで、イメージコンサルタントの堀川美紀先生による「自己表現&ボイストレーニング講座」が開催された。22名の学生が、好感を持たれる話し方についての講義を受け、腹式呼吸や発声練習、早口言葉などの実践的なトレーニングを行った。講座の後半には、学んだことを踏まえて一人ずつ自己紹介を行い、堀川先生からフィードバックを受けた。

落語研究会所属の柏木美祐さん(文3)は「人前で話す機会はあっても、伝わり方は自分では分かりにくく、プロの先生に指導していただきたくて参加した。腹式呼吸や、口を縦に開ける意識をすることで、喉に負担をかけず大きな声を出せると学んだ。これから本格的に始まる就活にもきっと役立つと思う」と感想を語る。

元ラジオキャスターの経歴をもつ堀川先生は、いわば話し方のプロ。コロナ禍のマスク生活により私たちの口の筋肉は緩みがちだが、意識して口角を上げるだけでも、張りのある明るい声になるという。



↑腹式呼吸の練習。お腹に手を当て指導する堀川先生



↑自己紹介の様子



↑柏木さん

最後は学生に対し「親御さんから頂いたご自分の声に自信をもって、学んだことを意識して過ごしてみてください」とエールを送り、講座を締めくくった。